

おくすり手帳用患者向け相互作用データベースの構築

Development of Database System to Advice for the Patient on Drug Interactions

宮村 信輝 杉平 直子

メディカルデータベース株式会社

Nobuteru Miyamura Naoko Sugihira

Medical Database Co.,LTD.

【目的】平成 16 年度社会保険診療報酬等の改定により、患者への相互作用情報の充実がより求められることとなった。そこで、我々は、相互作用情報(飲み合わせ情報)を患者向けに提供することを目的として、「おくすり手帳用患者向け相互作用(飲み合わせ)データベース」の構築を行った。

【方法】相互作用の記載対象は、添付文書において、(1)「禁忌」、「原則禁忌」となっている医薬品、(2)「併用注意」となっているものの中で「併用回避」、「服用間隔をあける」等となっている医薬品、(3)「飲食物」、「生活行動」等薬剤以外で指導が記載されているものの 3 種とした。

これらの医薬品や飲食物等と簡単な説明を組み合わせてコメントを作成し、それぞれコメントコードを付与して、コメントテーブルを作成した。次に、作成したコメントコードを各医薬品に付与し、医薬品-コメントコードテーブルを作成した。これら二つのテーブルを結びつけデータベースを作成した。

【結果および考察】本データベースによる記載例を示す。

塩酸ミアンセリン錠と以下のくすりは一緒に服用できません。

・精神科の薬 チオリダジン

・パーキンソン病の薬の一部(MAO[モノアミン酸化酵素]阻害薬)

このように、患者向けには簡単な効果効果を示して相互作用の相手薬の情報をわかりやすくし、常時携帯するおくすり手帳に記載することで処方薬の相互作用について注意を促すことができると思われた。また、括弧内に専門用語を記載することで、医療従事者にとっては服薬説明の参考や他の医療機関に対する情報伝達手段として活用できると思われた。